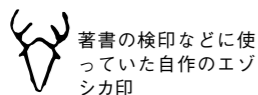


更科源藏(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。



著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



9月28日に更科源藏文学資料館で行われた摩周湖の歌コンサート



1958(昭和33)年 東京の伊福部宅で 更科(左)と伊福部

更科源藏生誕110年・伊福部昭生誕100年「摩周湖の歌」コンサート

日本のクラシック音楽界の第一人者で東京音楽大学の学長を務めた伊福部昭は、1914(大正3)年、釧路で生まれました。今年2014年は生誕100年という事で、各地でお祝いのコンサートが開かれています。

「原野紀行」第9号で伊福部を紹介していますが、更科と伊福部は1940(昭和15)年、更科が札幌へ転出したところに出会っています。伊福部は、更科が1943(昭和18)年に刊行した『凍原の歌』から、4つの歌曲を作曲しています。

「オホーツクの海」1958
「シレットコ半島の漁夫の歌」1960

「摩周湖」1992
「蒼鷺」2000

(数字は初演の年)

伊福部は、更科と出会ってからの最後の歌曲を書き上げるまで、50数年の歳月をかけているのです。更科の詩集から歌曲を作る約束を果たした伊福部。二人の友情とはどんなものだったのでしょうか。

2014年は更科源藏生誕110年の年でもあり、その記念の9月、4つの歌曲が更科源藏文学資料館に響きわたりました。詩人・木部与巴仁氏の企画で実現したのです。出演者は次のとおりです。

(敬称略)

バリトン／根岸一郎
ピアノ／八木智恵子・河内春香
ヴァイオリン／神山和歌子
ヴァイオリン／戸塚ふみ子
コントラバス／中村杏葉
ファゴット／岡田志保
オーボエ／三浦舞

詩唱と語り／木部与巴仁
木部氏と筆者の出会い、伊福部が没した2006年。東京での追悼コンサートのときでした。木部氏と伊福部の弟子の皆さんと会ったとき、いつかは更科の生地で伊福部と更科の歌曲を演奏したいとの話になったのですが、十数人のメンバーを弟子屈にお呼びしてのコンサートは、予算のことを考えるととても実現できるとは思っていませんでした。しかし、演奏家たちへの木部氏の熱心な働きかけと、音楽家たちの伊福部作品演奏への心意気と理解があつて、コンサートが開くことができました。

二人のふるさと道東で、4つの歌曲が初めて演奏されたことを、更科も伊福部も喜んでくれたのではないかと思うのです。

当日、会場で、二人の友情の証しである歌曲をお聴きくださった大勢の方々感謝します。

※更科源藏資料紹介「原野紀行」は、今回で終了します。



図書館だより

中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆特集展示

『掃除、整頓、始めませんか!』
年末が近づくと、考え始めるのが「大掃除」。掃除・整理整頓の参考になる本を集めました。どうぞご利用ください。

▼期間／12月2日(火)～12月30日(火)
▼場所／特集展示コーナー

☆貸出冊数2倍フェア

年末年始のお休み前に、たくさんの本を借りたい!という方のために、期間中、貸出冊数を通常の10冊から20冊へ拡大します!(貸出期間は通常通り2週間です)

▼期間／12月16日(火)～12月30日(火)

☆年末年始の休館日

12月31日(水)～1月5日(月)休館です。休館中、本の返却は図書館玄関横のブックポストをご利用ください。
新年は1月6日(火)から開館します。
▼今日の休館日
1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・23日(火)(天皇誕生日)・29日(月)・31日(水)

新刊案内

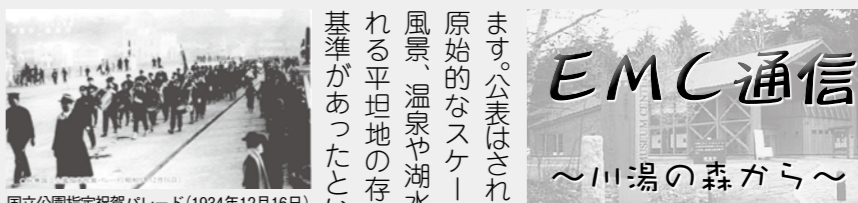
- 「世界の図書館」 ジェームズ・キャンベル／著
 - 「鮭の歴史」 ニコラス・ミンク／著
「目を温めれば視力は良くなる!」 中川 和宏／著
 - 「3時間で編める帽子とあわせ小物」 辰巳出版／編
 - 「まっちゃんのかんたん焼きおやつ」 町野 仁英／著
 - 「絵手紙の年賀状・2015年版」 絵手紙いずみの会／編
 - 「冬の薔薇立ち向かうことを恐れずに」 小林 凜／著
 - 「にじいろガーデン」 小川 糸／著
 - 「ゴースト・スナイパー」 ジェフリー・ディーヴァー／著
 - 「ライオンのひみつ」 マーガレット・ワイルド／文
- たくさんのお待ちはしています!

分水嶺

笹本 稜平／著
「その峰を越えるか、とどまるか…」
幻のオオカミ探しに人生を賭けた、仮釈放中の男。父の遺志を継いで再出発した山岳写真家。彼らの真摯(しんし)な魂が触れ合うとき、奇跡が起こった。舞台は厳冬の大雪山。大自然の豊穡(ほうじょう)たる魂を高らかにうたう本格山岳小説!



おすすめの新聞



国立公園指定祝賀パレード(1934年12月16日) 「国立公園指定50周年記念 目で見える阿寒国立公園史」より)

EMC通信

～川湯の森から～

現在、31の国立公園を抱える日本ですが、その歴史は指定場所の選定が始まった1921(大正10)年にまでさかのぼります。公表はされなかったものの、原始的なスケールの大きい山岳風景、温泉や湖水、施設が建てる平坦地の存在といった評価基準があつたといわれています。

12月4日 阿寒国立公園指定から80年!

1展望台への道路開通、阿寒横断道路完成、釧網本線全線開通といった交通網の整備も後押しになりました。事前に調査委員会一行が訪れたときの様子を、地元新聞社は「絶景大いに気に入った模様」と伝えています。そして1934(昭和9)年、第一期として川湯から阿寒にまたがるエリアが「阿寒国立公園」として指定を受けることになりました。国立公園業務を停止せざるを得ない戦争期を乗り越え、1年のうちの半分は雪に閉ざされるという難条件を打ち破り、歩を進めてきた阿寒国立公園。これからも、後世まで残すべき自然環境を守り続けていく。身近に国立公園と接している住民として、12月4日はそんな思いを新たに1日にしてみてはいかがでしょうか。

2階ギャラリー 工芸作品展「磯里博巳の世界」開催中!

12月の2階ギャラリーでは、阿寒国立公園指定80周年を記念して、屈斜路コタン在住の工芸作家・磯里博巳さんの作品展が行われています。

物心ついたころから、両親がわりわいとする木彫りを傍らで見て真似ていたという磯里さん。素材をエゾシカの角やガラス玉へと広げながら、屈斜路湖の空気とアイヌ文様を絡ませた作品を生み出しています。今回はレリーフや彫像、アクセサリーなどが並びます。ぜひ、ご覧ください。



繊細な作品を見に来ませんか

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100
URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 12月は9:00～16:00開館(水曜日、12/29月～1/3(土)休館)